

夏休み特集	1
放射線障害防止講習会	5
第14回 五月レガッタ	6
科学研究費配分内定	7

夏休み特集



遊びのすすめ

志村 正道

学生時代の夏休みというのは長い人生の中でも大変貴重な期間である。また、その人の人生に対しても重要な分岐点となり得る。勉強するのもよいだろうが、遊んでみることも大切である。しかし、マンガとヘッドホンのしらけた時間だけはつくらないようにしよう。

さて、このような夏休みが、大学4年間で4回あると思っているとがっかりするかもしれない。1年目の夏は何となく過ぎてしまう。4年目の夏は卒業研究とか大学院の入学試験の準備で忙しい。3年目の夏は工場実習などに行っていると休みがなくなってしまう。もったいない話である。

では、この貴重な夏休みをどのように過ごせばよいだろうか。それは個人個人の性格や趣味によって違うだろうから、これだと決めることはできないが、夏にしかできないことで、しかも長期間かけないとできないことというのが正解であろう。以下、自分の経験を通じていくつかのアイデアを述べてみよう。

まず、山に入ることをすすめたい。もちろん海もよい。若い頃は、海辺の生活も大いに楽しんだが、長い期間というと山になる。夏休み中、山麓の民宿に居を構え、北アルプスの山にはよく登った。山に登ったことがない人は是非この夏挑戦するとよい。高尾山でくたびれて、いやになる人でも、槍や穂高ではかえってくたびれないものである。近頃は年をとったのと忙し

いのと両方でなかなか山に入る機会がない。軟式野球部の顧問教官をしている関係で、4年程前夏の合宿について行ったついでに、一緒に連れていった子供と駒ヶ岳に登ってきた。山はいつ行ってもよいものである。とにかく、歩いて、つらい思いをするのがよい。

旅行もよいかもしれない。とくにひなびた所への旅は。だが、ドライブは止めた方がよい。あれは、ただガソリンを撒き散らすだけであり、年をとってからでもできる。いわゆるナナハンを乗り廻していたことがあるので、単車のツアーは楽しいと思うけれど、まあ十分気をつけた方がよい。

ヨットや水上スキーもやってみると極めて楽しい。テニスもよいだろう。このように考えるとスポーツなら何でも楽しいしということになるし、集中してやれば上達も早いだろう。スポーツ嫌いな人も、何でもよいから是非やってみることをすすめる。ただし、出来るだけ多くの友達をさそう方がよい。夏休みは、一生涯の友達をつくる大切な期間でもあるから。

遊びの理屈も研究に広げると効果が大きい。山登りの合い間の民宿で、分厚い専門書を読み上げたときの感激は今でも憶えている。ちょうど山頂をきわめたときのように、視界が一時に開けた感じがしたものである。大学院の学生には、とくにこのことをすすめたい。1冊の本を自力で読破して、自分のものにしてしまうことを。原書ならなおよい。研究テーマに悩んでいる学生は、きっとよい知恵が生まれると思う。原書といえば、外国語の小説でもSFでも何でもよいから読んでみるのもよいだろう。学生時代の^{ひととき}一夏で、ドイツ語

夏休み特集

の単語集を憶えてしまったことがあるが、英語以外の外国語にもなじんでみるのもよいだろう。

最後の方は、いわゆる遊びの話ではなくなったが、常識のない専門バカにならないように、専門以外のことにも手を出してみるよい機会である。卒業して社会人になれば、学生時代のような夏休みはもうない。いろいろな意味で貴重な夏休みなのだから、後で後悔しないよう何か一つのことを成し遂げてみよう。慢然とした怠惰な夏休みだけは過ごさないようにしよう。そして、秋には精神的にも肉体的にもたくましくなって出て来て欲しい。(工学部情報工学科 教授)

夏休みに本を読む読み方

奥脇 直也

夏に大学が休みになるのは暑さで思考能力が減退し日常の研究活動の水準を維持できなくなるからであるという俗説は到底信じるわけにはいかないが、かといって普段本を読む暇と習慣のない人に殊更に暑い夏に気のすまぬ読書を勧めるのも若干酷のような気がする。そういう人のためには別に〈読書の秋〉に〈読書週間〉という有難い国民的年中行事が設けられている。

しかし、私の学生時代を振り返ってみると、夏休みの読書には様々な出来事が付随していて今でも楽しい思い出になっているし、むしろそうした経験を通じて本を読む楽しみを覚えていったとすら思えるので、〈読書の夏〉の know-how を披歴してこれを学生諸君の夏休み計画立案の参考に供しておきたい。

夏の読書で私にとって格別な意味をもっているのは、私が東京を離れて見知らぬ土地で数日を過ごした時の読書のようなものである。これは私の性格が多分に環境決定論的な構造をもっていることによるのかもしれないが、読書というものがその時々を読む人の心の状態に大きく依存することを考えれば、大学キャンパスという閉鎖された空間を離れ、自分の勉強部屋の見なれすぎた景色から離れ、日常性のマンネリズムから自分を解放して一種の興奮状態を演出することが、本を読むことにとって案外大きな意味をもっているということなのかもしれない。いずれにせよ、本とそれを読んだ場所の連想は、今でも自分がその時何をその本から読み取ろうとしていたかを鮮やかに思い出させてくれる。

私は宿には学生村の民宿や小規模な旅館を好んで選んだ。むろん金銭上の理由からであったが、しかし夏の読書にはこれは欠かせない条件でもあったようだ。何しろそういうところは、別荘やホテルと違って開放的であり、おまけに必らず自分と似たような気持でやってきている人間が何人かは棲んでおり、またそれが東京での自分の限られた生活空間の中ではまず出会うことのないような得体の知れない人種であったりする

からである。そういう人の眼には自分もまた奇異な人間に見えるらしく、互いに自然と相手の読んでいる本への興味がついてくる。しまいには本のことなどそっちのけで議論深更に及ぶこととなる。宿に可愛い気な娘さんがいることもある。

友達と一緒にいくときは、二人連れが限度である。三人となると自足的な集団になってしまい見ず知らずの他人の入り込む余地がなくなるし、四人となるとやる事が決まってしまう。連れの友達にはできるだけ理屈好きで何事にも一家言あるような人を選ぶべきである。そういう相手が見つからないときは、一人でゆく方がよい。友達連れで行くときには、互いに勉強しに行くことを確認しておくべきであるが、議論に夢中になって滞在中一冊の本も読了しなかったとしてもそれはそれでよい。要は本を読む意欲を持続することにある。

滞在は旅行日を含めて最低一週間は見る方がよい。私の場合、宿に着いた日と次の日は付近をぶらついて潰してしまうことが多かったし、帰る日とその前の日は何となく気が落ちつかなかったから、これでも正味は三日しかない。できれば10日は滞在したい。夜は交通の遮断されるところがよい。

さて最後に読書の内容であるが、私の場合本が沢山ないと落ち着かない性分で、ダンボール箱に本を詰めて事前に鉄道チッキで宿に送ったりしたものである。もっともこれは一種の精神安定剤のようなもので、ひどい時には箱をあけもしないでそのまま帰る日に送り返したこともある。だから持っていく本は少ない程いい。二、三冊あれば充分である。ただし、基本的には普段読みそうもない本を選ぶのがよい。時事的な本や評論のようなもの、やたらに情報の多い本はやめた方がよい。そういう本はむしろ東京で読むのにふさわしい。一行読み、一段落読み、一章読む毎に、寝ころがって反芻し、そこから想像を自由にふくらましていけるような本が最適である。

私は夏には社会科学の古典を読むことが多かった。アリストテレスの「ニコマコス倫理学」、ルソーの「人間不平等起源論」、中江兆民の「三酔人経綸問答」、ウェーバーの「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」、プラトンの対話篇などは、〈読書の夏〉にはもってこいの古典であり、そのいずれもが夏の読書によって諸君の一生の知的財産となるものであると確信している。(工学部人文社会群 助教授)



“心に残る夏休みを”

大塚 美枝子

毎年夏休みの前になると、今年はどうしようと必ず考えるのであるが、私自身、理想的な夏休みなど過ごせたためしがないので、参考になるようなことを書く資格はないのだが、こんな夏休みが過ごせたらなあとときどき思うので、そんなことを少し書いてみることにする。

人はそれぞれ異なった性格を持っているので、夏休みの過ごし方にも好みがあるはずなので、万人に共通な理想的な過ごし方などあろうはずはない。私が思うのは、一口に言うと、“夏休み”には日頃できないこと、やりたいと常々思っていてまとまった時間がないために果たされないことをするのがよいと思う。

たとえば“読書”。日頃は雑事に追われ、まとまった本を読むことができない。その種類も、日頃はつい（あるいは仕方なく）取捨選択して専門に近いものばかりしか読まないの、夏休みのような時には、思いきってふだん読みたいと思っている全く関係のない本でも読んでみると、意外にはっと思われる文に出くわすことがある。また、科学の分野がますます広がって専門が細分化されてきている昨今では、意外なところで似たようなことが扱われている場合もあるので、新しいアイディアを見出すことができるかも知れない。そんな読書が夏休みにできたら、休みあけにはすっきりした気分新しい仕事に取りつけるか、場合によってはそれが次の仕事へのよい糧になればもっと理想的である。

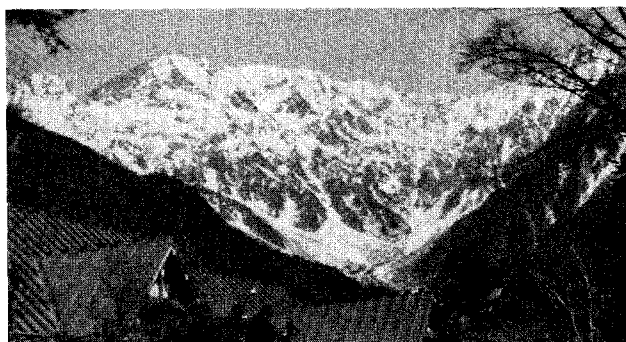
また、日常案外果たすことのできないのが友達と会うこと。ときどき専門の異なる友人同志が接触して話合うことは幅の広い人間づくりにも重要なことである。比較的時間のとれやすい夏休みなどはそんな機会を作るのに大変よい時期だと思う。

さらに、夏休みでなければできないことの一つは“旅行”。海外旅行なんてすばらしい。ただし費用の問題もあるので少しぜいたくな望みかも知れないが……。昨今ではテレビその他の情報が多いので国内のことはかなり報じられているが、国外の情報はまだまだ少ない。国内で旅行をしてもけっこう費用がかかるから、少し足を出して海外へ行ったら収穫はより大きいと思う。

私の心に残っているのは山を歩いたことである。10回位行ったろうか。あの美しさは決して忘れない。その頃は一生歩きたいなどと思ったものだが、条件の揃った機会はそれ程何回も訪れるものではない。機会があるときには是非実行すべきである。これは山歩きだけには限らない。もっともこのことがその後どんな役に立っているのか……。その判断はそれぞれの方にお

まかせする。

要するに、休養もよし、遊ぶもよし、思い出づくりも、もちろん勉強もよし、とにかくふだんできない何か少しまとまったことをして、“明日へのエネルギー”になるような、そして“心に残る夏休み”を過ごしたいと思う。（極低温エネルギー実験センター 助教授）



旅によせて

森 榮司

生来の物好きが拍車をかけるせいか、国内出張や国外出張の折には、事前に訪問地や訪問国の歴史、地理、社会、産業、交通その他人と自然に関する資料（単なる旅行案内書だけでなく、旅行記、百科辞典、美術全集、各国の歴史書、歴史地図、地理書と地図、関連文学書、時刻表その他）を出来るだけ調査し、自分なりに有機的、主体的に大要を把握するように努め、又まとめた資料を持参するようにしている。

時間の制約もあるので大変面倒なことでもあるが、一方このような準備をした上で現地を訪ねると、会う人々、何げなしに見える風物などの現在の姿だけでなく、歴史的ないろいろな経過をも恒間見る思いがする。又表面的ではなく、心の内底深く染みこむものがあり、初めて訪ねたといった異和感などは余り感せず、親しみ深い思いがどっしりと沈着するといった経験をしばしば味わってきた。

このような旅の仕方や経験のもち方は、単に知識を広げたり、好奇心を満たすといったことだけではなく、常識をふやし、又大局的にものを見たり考えたりするのに役立ち、さらに仕事を遂行するのに当って良い判断をし、良い行動をし、良い結果を得るといったことの基礎的なパワーを醸成することの一助となるものと信じている。

将来なんらかの意味合いでのリーダーたらんとして日頃研鑽を積んでいる学生諸君、学生にしか許されていない長期間の貴重な夏休みを知識と見識とを養う上に有意義であるよう工夫をこらして過されるよう祈ってやまない。
（精密工学研究所 教授）

山旅に出かけてみませんか！

桐生 武夫

暑いからと言って、なるべく汗をかかないようにし豚尻の如く食べては寝てばかりいる生活を繰り返していると体力は、大幅に低下してしまいます。このことは、体育実技のトレーニングの授業において夏休み直前と直後の所要時間の比較で毎年はっきりと知らされています。そこで、夏休みには気の合った友人と山の旅に出かけては如何でしょう。旅行と安全な登山と大自然との付き合いと自分の趣味を活かした欲張りな提案です。いくら無趣味な人でも、すばらしい風景を写真に撮って楽しい思い出とするでしょうし、絵心があればスケッチ、植物が好きなら花の山旅としゃれこむことが出来ます。さらに、動物好きなら bird-watching や夏鳥たちのコーラスを楽しむことが加わります。

学生時代に山の旅を勧める理由は、何と言っても体力が高い時期であり、行先が素晴らしい処程、健脚ぶりを要求されるからです。第2の理由は、旅費が値上がりした今日でも、学割が使えて遠方へ出かけるのには有利だからです。秘境と言われた黒部ダムも今では、日本一高額な乗物を乗り継いで婦人がサンダル履きでも行けるようになりましたが、今でも自分の健脚を頼りにしか行けないすばらしい処があります。それは、尾瀬です。毎年、尾瀬を訪れる人は35万人もいるそうですが、そのうちの6割が女性であることからわかるとおり大変ロマンチックな花の山旅です。神秘的な尾瀬沼と山上の楽園とも言うべき尾瀬ヶ原、夢幻の世界に誘う尾瀬の霧、そして燧ヶ岳や至仏山の崇高な姿は訪れる人々を感動させずにはおかないでしょう。特に初夏から8月中旬までの季節は、至る所に高山植物群落が見られ、その景観は、まさに圧巻です。

尾瀬探訪のメインコースは、大清水から三平峠を経由して尾瀬沼と燧ヶ岳、そして尾瀬原を訪ねるわけですが、2泊3日の行程になります。大清水から三平峠を登り始めると、先ずウグイスの美声が歓迎してくれますし、川沿いの高い梢ではコバルト・ブルーの金属色をしたオオルリが良く囀ります。標高1500mを過ぎれば、深い沢の中から冷気を震わせてコマドリの“ヒーン カラカラ”と言う鳴声が聞えて来ます。これらの鳥は、日本三鳴鳥と言われて、声の美しい三傑なのです。峠を越えて少し下ると、針葉樹林に包まれた尾瀬沼が光って見えて来ます。

針葉高木林からダケカンバ林やハイマツ林に至る亜高山帯は、環境に変化があるため美しいお花畑が出現します。夏休みに入ってすぐに行けば、日光キスゲの大群落を目の当りにして圧倒されるでしょう。さわやかな風が通り過ぎてゆく度ごとに湿原一帯が黄色の絨緞のように揺れ動きます。尾瀬と言えば水芭蕉で6月上

旬の花ですが7月には葉が大きくなり、場所によっては遅咲きの花が見られます。このほか、ワタスゲ、ヒオウギアヤメ、コバイケイソウの蜜生した大群落があります。標高の高い湿原だけにカッコウやホトトギスのような杜鹃科の鳥が多く、ことにカッコウの声は、高原らしいのどかさを伝えます。

この夏休みを清澄な空気と花畑と鳥のコーラスの中で過して見ませんか、必らず青春の良い思い出が残ると思います。(工学部保健体育 助教授)

人との出会いと礼状

清水 康敬

夏休みを前にしていろいろ計画している人も多いかと思う。まとめて大いに勉強しようとか、海や山へ行こう、旅行しよう、帰省しよう、スポーツをしよう、アルバイトをして稼ごう、勉強はすっかり忘れて遊んでやろうとか、夢は人様々であろう。ここでまず、私の学生時代を振り返ってみると、次のようだったと記憶している。

大学1年次の初めての夏休みには、普段の勉強不足を一気に取り戻そうと考え、長野県の実家へ教科書と参考書をダンボールに詰めて送った。しかし、実家では方々出歩いて遊ぶのに忙しく、勉強は何もしないうちに東京へ帰る日が来てしまった。送った書籍はそのまま送り返す結果となった(尤もダンボールは全く梱包を解いてなかったの、返送の苦労は少なかった)。その経験からすると、2年次以降の夏休みには、書籍等を全く送らなくても良さそうなものだったが、教科書を傍に置いておかないと不安であるという小心のため、数を減らしはしたが実家へ送り、1冊も読まずに東京へ戻るのが常であった。このように、私は、夏休みには勉強をしなくてはいけないという気持ちはあったが、常に遊びやアルバイトに専念していた。

さて、海や山へ行くとか、旅行をするということを考えると、夏休みは絶好の機会である。そこには、美しい自然があるばかりでなく、多くの楽しい人々が居る。我々の人生は、人との“出会い”によって大きく左右されることがよくある。その人とそこで出会ったために、すばらしい人生が開かれることもあり、或いは嫌な思いをすることもあろう。しかし、様々な人と積極的に話をし、議論をし、つき合うことによって我々は多様な勉強をすることになり、人間的に幅が広がる。

旅行をすると自然に出会いのチャンスが多くなる。その意味においても、旅行をする(出歩く)ことは大変になる。例えば、列車の中で隣の席の人と気軽に話をすると、非常に勉強になることが多い。「随分長いトンネルですね」とか、「恐れ入りますがその新聞を見せて下さい」とか、話を始めるきっかけは簡単

夏休み特集

である。特に、若い時は何でも吸収してやろうと意欲満々であるから、初めての人、しかも他分野の人との会話は極めて勉強になると思う。話がはずんでお互いの身分や氏名までも明かすことになれば、その出会いはすばらしいものである。

ところで、旅先では出会った人にお世話になることが多い。私は、旅先等でお世話になった人には出来るだけ礼状を出すことにしていた。これは、感謝の気持ちを伝えるだけでなく、その人との出会いを継続させたいためであった。さらに、友人の家に泊めていただくなど、特にお世話になった場合には、一応実家の両親に知らせた。そうすると、私の父は昔は筆まめだったので、礼状を出してくれた。これは、相手を恐縮させる結果とはなったが、その人とのつき合いは非常に

親密になった。

また、私は観光地の名所・旧跡において親しく話をした人（若い女性？）の写真を撮ることにし、後でその人に出来るだけ送ってあげることを心がけた。その場合は相手の住所氏名を聞いておかないと、テレビの「プロポーズ大作戦」にでも頼まねばならなくなってしまう。ある時、美人の娘さんを連れた父子連れに会い、写真を娘さんに送ったところ、父親から礼状が来て説明し難い気持ちを感じたこともあった。写真も人とのつき合いを継続させるのに役立つものである。

夏休みには出来るだけ人との出会いの機会を多くし、礼状によってその人とのつき合いを継続させるのも良いのではないかと思う。

（教育工学開発センター 助教授）

昭和57年度放射線障害防止に関する講習会

放射線障害予防委員会委員長 福 富 博

「昭和57年度放射線障害防止に関する講習会」は5月27日(木)午後1時30分から4時まで第4新館243講義室において開催され、百数十名の出席者で教室が溢れ一部立ったままの受講者もいるという盛況であった。この講習会は「放射性同位元素等による放射線障害防止に関する法律」、いわゆる「障害防止法」で義務づけられている教育訓練の一環として、毎年この時期に行われているものである。同法は昭和55年にかなりの部分が改正され、それを受けて大学の規則等も56年から57年にかけて大幅に改正が行われた。それによると講習の課目と時間数が定められ、益々規則が厳しくなっている。本年度の講習会は以上を踏まえて次の演題及び講師により行なった。

(1)開会のあいさつ 福富 博

(2)学内における放射線の利用と管理について

放射性同位元素実験室及び理学部放射線取扱主任者 旗野嘉彦

(3)核燃料物質の取扱いにおける放射線管理について

原子炉工学研究所核燃料取扱主務者 井関孝善

(4)新しい放射線障害防止法令の孝え方について

セコム科学技術振興財団事業部長 石川友清

旗野助教授からは、既に400名以上(X線を含む)の放射線作業従事者がいる本学の放射線取扱施設の現状及びその管理体制について総括的な説明があり、また井関助教授からは、核燃料物質と放射性同位元素(RI)の管理、規制上の差異、及び核燃料物質による表面汚染測定の詳細について説明があった。幸いにして本学ではこれまで問題となるような事故は一度も起きていないが、これは放射線管理にかなり犠牲的に貢献している教職員のおかげであって、その努力を多としたい。(4)の講演で講師の石川氏は、“みんなに親しま

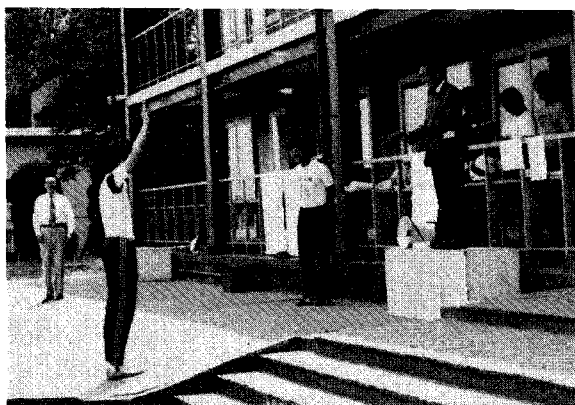
れる法律”という観点から、このたびの法改正の概略に触れ、特に障害防止法の組み立てについて判り易く説明した。すなわち第一条(目的)はいわゆる民主、自主、公開の3原則で知られる原子力基本法にのっとり、放射性同位元素等の取扱いを規制するものであること、等二条(定義)の条文については今回の改正点を含め、放射線、放射性同位元素、放射性同位元素装備機器、放射線発生装置の定義を具体例をあげて示し、装備機器としては ^{63}Ni 装備のガスクロ用ECDのみが従来の許可制に替えて届出によって使用できるようになった経緯説明があった。ECDの使用者は急増しているので、この改定は相当の改善となるであろう。今回の法改正には施設の定期検査、RIの運搬等、重要なものが多く含まれているが、時間の関係で省略し、受講者の関心事の一つである放射線取扱主任者の資格取得に、従来の国家試験に加えて、一定の講習を義務づけ終了者に交付することになったこと、またRI 装備機器利用の拡大に合わせて、第二種の主任者免状のうち装備機器については講習のみで交付することになった背景について説明があった。これは放射線障害防止に対する知識や経験の豊富な者を主任者にするという考えで、それに異を唱えるわけではないが、免状取得がやや厳しくなり煩雑になった印象は免れない。われわれ理工系の者にとっては、とかく法律は面倒くさい、とっつきにくいものと敬遠され勝ちであるが、石川氏の講演が法律をぐっと近づけたような感じを与えたのが私だけの錯覚でなければ幸いである。なお今回の講習会の開催に当っては前委員長の久武和夫教授及び研究協力部の方々に大変お世話になったので、誌面を借りて感謝の意を表する次第である。

(原子炉工学研究所 教授)

第14回 五月レガッタ

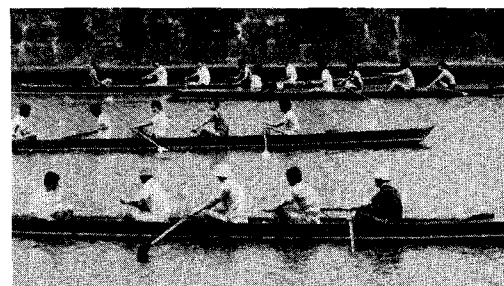
連日真夏日のような日が続く中、5月26日、創立101周年を記念して五月レガッタが盛大に開催されました。本学の精鋭たちが、戸田オリンピックボートコースに集まり、4人1組となって、その腕を競ったのです。参加数28クルー、114名。教務関係者、ボート部員を合わせると総勢160名が、普段は各大学の端艇部の練習で賑わうコースを借り切り、ボートレースに爽やかな汗を流しました。

今回は、まるで夏のような太陽に誘われたのか、午前8時を回ると続々と練習をしたいというクルーが来て、開会式前から熱い戦いが始まりました。その中でも先陣を切ったのが「長津田No.1」。少しでも参加クルーが増え、ボートの楽しさを味わってもらいたいと我々が長津田まで宣伝に行った甲斐あって、誠にうれしいコース一番乗りでした。それぞれ、我こそ優勝し栄光の祝杯をあげんものと練習に余念がありません。ボート部員に合わせて漕ぐことが大切であると言われるのですが、どうしても各自が力いっぱい漕いでしまい結果的に艇が速く進まないことを知ると、さすがは工大生、あちこちで「とにかく俺に合わせろ。」の声です。



練習も一通り終わり、午前10時30分には参加者全員が整列し開会式が行われました。教務部長による会長挨拶があり、続いて2年連続優勝の無機材料工学科の宇田川研から優勝杯が会長に返還されると各クルーの視線が集中します。その沈黙を破って土木工学科三木研の時田氏が潔くユーモラスな宣誓をし、レガッタの雰囲気盛り上がります。さらに、ラジオ体操の音楽がスピーカーから流れると、ライバル同士とは言え互いに懐しいメロディーに参加者の気持ちはひとつになりました。やはり、準備体操は大切です。

さて、予選は4杯レースで、1、2位が準決勝へ、3、4位が敗者復活戦です。距離はいままでの400mから300mに短縮され、技術を越えた気力の勝負となりました。そのせいか、好タイムが続出し予選を終了した時点で1分30秒台が8クルーにのぼり、予断を許さない状況でした。敗復にまわったクルーの中からも1分



28秒の「武ちゃんマン」が出るなど、まさに実力、気力伯仲です。敗復終了後、冷えたジュースとボリュームたっぷりの特製カレーライスで腹ごしらえをする参加者の前で、ボート部選抜メンバーによる模範試合が行われ、観戦者から大きな拍手が起こりました。

準決勝4杯レースを1位で通過したクルーは決勝へ、2位は順位決定戦へと最後のレースにのぞみました。ここまで勝ち残ると何がしかの賞品を手にすることができのですが、1つ順位が違えばビール券の枚数が幾何級数的に違ってくるとあって、スタート地点へ向かう各クルーは最後まで懸命に練習です。順位決定戦では逆風を突いて予選・準決とコンスタントなタイムを出した「ショーターズ」が1分33秒で制しました。決勝5杯レースは、1L(レーン)初出場「一色・黒崎研」、2L宇田川研の精鋭「γ一万太郎」。3L敗復から上がった「男樹みゆき号」。4L若い「極悪坊主」。5L3年連続決勝進出「四喜和」です。ゴール前ではどこが優勝杯を手にするか予想が飛び交う中、発艇を待ちます。スタート/4Lが出遅れた他は好調な出足です。150m付近で2Lがやや乱れましたが、4杯ともほとんど横一線。この激しい競漕を抜け出したのはなんと無印の1L。そして、そのままゴール、1分25秒のレコード優勝。以下2位3L、3位5L、4位2L、5位4Lという結果です。2位から4位までその差が1秒ないという決勝戦にふさわしい好レースで盛り上がりも最高潮に達しました。

閉会式では教務部次長より優勝杯・賞状、ビール券が授与され、さわやかな笑顔が広がりました。

途中我々の不慣れのため試合が遅れたこともありましたが、参加者全員の協力で盛会に無事終了したことを感謝します。今後さらにこの五月レガッタが教職員、院生、学生、留学生の交流の場として発展し全学あげての水上運動会になるよう希望し、努力したいと思います。

第14回 五月レガッタの結果

優勝「一色・黒崎研」	6位「ショーターズ」
2位「男樹みゆき号」	7位「伊賀影丸」
3位「四喜和」	8位「フリッパー」
4位「γ一万太郎」	9位「イタコのイタロー号」
5位「極悪坊主」	10位「Mr.ウルトラソニック」

東工大端艇部 五月レガッタ推進委員長 土屋 徹

科学 研究 費 配 分 内 定

昭和57年度文部省科学研究費補助金の配分内定通知が6月初旬に文部省からありました。本学関係分は、新規・継続を合わせて採択件数317、配分予定額1,066,110千円でした。昨年度分との比較対照は次のとおりです。特別推進研究と奨励研究Bも配分が予定されていますが、ここには含まれていません。

新 規 分

区 分	昭 和 56 年 度					昭 和 57 年 度				
	件	申請額(千円)	件	配分額(千円)	採択率(%)	件	申請額(千円)	件	配分予定額(千円)	採択率(%)
が ん 特 別 研 究 (1)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
が ん 特 別 研 究 (2)	1	1,574	0	0	0	1	3,500	0	0	0
自 然 災 害 特 別 研 究 (1)	1	19,740	1	19,700	100	1	6,204	1	3,600	100
自 然 災 害 特 別 研 究 (2)	3	11,159	0	0	0	3	10,835	0	0	0
環 境 科 学 特 別 研 究 (1)	4	34,866	3	26,000	75	3	25,906	3	20,200	100
環 境 科 学 特 別 研 究 (2)	1	1,260	0	0	0	—	—	—	—	—
エ ネ ル ギ ー 特 別 (エ ネ 1)	7	109,456	5	70,800	71. ⁴	8	130,223	6	96,600	75
エ ネ ル ギ ー 特 別 (エ ネ 2)	17	54,174	7	16,200	41. ²	12	36,125	4	9,900	33. ³
エ ネ ル ギ ー 特 別 (核融合1)	3	116,562	3	48,800	100	5	99,859	4	46,050	80
エ ネ ル ギ ー 特 別 (核融合2)	5	30,330	1	1,100	20	3	31,901	3	18,150	100
特 定 研 究 (1)	6	209,444	6	166,200	100	7	156,818	7	120,500	100
特 定 研 究 (2)	19	84,980	10	33,800	52. ⁶	24	88,163	11	29,500	45. ⁸
総 合 研 究 A	23	207,109	4	29,900	17. ⁴	22	171,168	5	21,200	22. ⁷
総 合 研 究 B	1	7,558	1	3,800	100	4	11,378	1	2,600	25
一 般 研 究 A	38	736,901	11	172,800	28. ⁹	32	622,833	8	144,500	25
一 般 研 究 B	106	679,599	19	108,960	17. ⁹	103	679,510	30	156,900	29. ¹
一 般 研 究 C	202	455,535	60	93,560	29. ⁷	216	501,098	62	102,110	28. ⁷
奨 励 研 究 A	168	154,428	73	58,080	43. ⁵	146	133,488	79	62,550	54. ¹
試 験 研 究 (1)	3	13,179	2	7,800	66. ⁷	11	87,319	1	3,600	9. ¹
試 験 研 究 (2)	88	411,743	18	66,700	20. ⁵	107	542,437	27	100,500	25. ²
小 計	696	3,339,597	224	924,200	32. ²	708	3,338,765	252	938,460	35. ⁶

継 続 分

自 然 災 害 特 別 研 究 (1)	—	—	—	—	—	1	10,900	1	10,900	—
総 合 研 究 A	5	7,300	5	7,300	—	3	9,200	3	9,200	—
一 般 研 究 A	5	12,000	5	12,000	—	13	40,100	13	38,900	—
一 般 研 究 B	23	43,662	23	41,100	—	27	49,861	27	48,200	—
一 般 研 究 C	9	6,630	9	6,630	—	11	4,998	11	4,750	—
試 験 研 究 (1)	3	6,118	3	4,800	—	1	3,000	1	3,000	—
試 験 研 究 (2)	18	20,742	18	20,700	—	9	12,700	9	12,700	—
小 計	63	96,452	63	92,530	—	65	130,759	65	127,650	—
合 計	759	3,436,049	287	1,016,730	37. ⁸	773	3,469,524	317	1,066,110	41

各種委員会名簿

(昭和57年6月現在)

前号(6月号 No.147)に引き続き、学内規則に基づく各種委員会の委員名簿を掲載します。

(◎印委員長, ○印副委員長)

創立百年記念事業実施委員会

学	長	◎松田 武彦
理 学 部	長	安盛 岩雄
工 学 部	長	藤本 盛久
大学院総合理工学研究科	長	明畠 高司
資源化学研究所	長	鈴木 周一
精密工学研究所	長	森 栄司
工業材料研究所	長	浜野 健也
原子炉工学研究所	長	青木 成文
附属図書館	長	早川宗八郎
総合情報処理センター	長	池辺 潤
教 務 部	長	田中 良平
事 務 局	長	鈴木 博司
理 学 部		小沢 満
		小口 武彦
		田中 郁三
		梅垣 寿春
工 学 部		越後谷悦郎
		中原 一郎
		竹中 俊夫
		小林 靖雄
		関口 利男
		飯島 泰蔵
		吉見 吉昭
大学院総合理工学研究科		岸 源也
		小林 啓美
		市川 淳信
資源化学研究所		大河原 信
工業材料研究所		黒正 清治
幹 事		庶務部長
		経理部長
		施設部長
		研究協力部長
		教務部次長

附属図書館委員会

附 属 図 書 館 長	◎早川宗八郎
附属図書館長津田分館長	前田 史郎
理 学 部	増田 一男
	小野 昱郎
	宮崎 栄三
工 学 部	中井 武
	恩沢 忠男
	内藤 喜之
	谷口 汎邦
	奥居 徳昌
	今田 高俊
大学院総合理工学研究科	高柳 邦夫
	中野 丈平
	梅沢 清彦
共 通 科 目	八嶋 建明
	馬越 庸恭
資源化学研究所	正田 誠
精密工学研究所	大槻 茂雄
工業材料研究所	沢岡 昭
原子炉工学研究所	北沢日出男
幹 事	附属図書館 事務部長 整理課長 閲覧課長

広報委員会

理 学 部	※宮崎 栄三
	△比企 能夫
	※森村 英典
工 学 部	△春山 志郎
	※佐藤 史衛
	△遠藤 満
	※南 一男
	△鈴木 敏郎
	※香西 泰
大学院総合理工学研究科(商)	△軽部 征夫
(精)	※下河辺 明
	△小林 重信
資源化学研究所	※仲 勇治
精密工学研究所	△丸山 一男
工業材料研究所	※森川日出貴
原子炉工学研究所	△佐藤 伸
大学院総合理工学研究科	◎関根 太郎
教 務 部 長	田中 良平
事 務 局 長	鈴木 博司
幹 事	研究協力部長

※印は、東京工大クロニクル編集専門委員会委員を、△印は英文広報資料専門委員会委員を兼ねることを示す。昭和58年度は両専門委員会委員を交代する。関根委員長は両専門委員会の主査を兼ねる。

組換えDNA実験安全委員会

組換えDNA実験安全主任者	◎野宗 嘉明
	久保田 宏
理 学 部	大西 孝之
工 学 部	戸田不二緒
大学院総合理工学研究科	佐治 孝
原子炉工学研究所	富安 博
研究委員会委員	華山 謙
保健管理センター	榎本 稔
事 務 局 長	鈴木 博司
工 学 部	吉田 夏彦
幹 事	庶務部長
	施設部長
	研究協力部長

実験廃液処理委員会

理 学 部	石戸 良治
工 学 部	春山 志郎
	中井 武
大学院総合理工学研究科	武井 尚
資源化学研究所	軽部 征夫
原子炉工学研究所	北本 朝史
理 学 部	桂 敬
工 学 部	◎一色 尚次
工学部附属工業高等学校	中村 豊久
事 務 局 長	鈴木 博司
幹 事	施設部長

長津田地区整備計画委員会

大学院総合理工学研究科長	○明 昌 高司
資 源 化 学 研 究 所 長	鈴木 周一
精 密 工 学 研 究 所 長	◎森 栄司
工 業 材 料 研 究 所 長	浜野 健也
天然物化学研究施設長	野宗 嘉明
像情報工学研究施設長	安居院 猛
理 学 部 評 議 員	小沢 満
工 学 部 評 議 員	中原 一郎
大学院総合理工学研究科評議員	市川 倬信
大学院総合理工学研究科	岸 源也
	大滝 仁志
	林 国一
	武者 利光
	古川 静二郎
	丹生慶四郎
資 源 化 学 研 究 所	佐伯 雄造
精 密 工 学 研 究 所	梅川 莊吉
工 業 材 料 研 究 所	黒正 清治
天然物化学研究施設	橋本 弘信
像情報工学研究施設	小門 宏
附 属 図 書 館 長	早川宗八郎
総合情報処理センター長	池辺 潤
総 合 研 究 館 長	小林 啓美
工 学 部	小林 靖雄
	吉見 吉昭
教 務 部 長	田中 良平
事 務 局 長	鈴木 博司
幹 事	庶務部長 経理部長 施設部長 総理工等事務部長 同 庶務課長 同 経理課長 同 教務課長 総理工事務室長 資源研事務室長 精密研事務室長 工材研事務室長 附属図書館事務部長 理学部事務長 工学部事務長 総合情報処理センター事務長

放射線障害予防委員会

理 学 部	久武 和夫
工 学 部	旗野 嘉彦
	後藤 和弘
	阿部 正紀
大学院総合理工学研究科	橋本 弘信
原子炉工学研究所	◎福富 博
資 源 化 学 研 究 所	曾我 和雄
工 学 部	長倉 繁磨
大学院総合理工学研究科	永津 俊治
	小川 雅生
原子炉工学研究所	新井 栄一
保健管理センター所長	辻 茂
事 務 局 長	鈴木 博司
幹 事	研究協力部長

安全管理実施委員会

健康安全委員会委員長	◎藤本 盛久
理 学 部	桑島 功
工 学 部	早川宗八郎
	大門 正機
	山本 經二
	田村 章義
	中瀬 明男
大学院総合理工学研究科	一国 雅己
	丹生慶四郎
資 源 化 学 研 究 所	田附 重夫
精 密 工 学 研 究 所	林 輝
工 業 材 料 研 究 所	斉藤 安俊
原子炉工学研究所	高橋 亮一

保健管理センター運営委員会

保健管理センター所長	◎辻 茂
助 教 授	榎本 稔
講 師	林 仁忠
理 学 部	鈴木 光男
工 学 部	井上 一郎
	桐生 武夫
	清水 勇
資 源 化 学 研 究 所	江口 元徳
学 生 相 談 室 長	清水 二郎
教 務 部 長	田中 良平
事 務 局 長	鈴木 博司

教育工学開発センター運営委員会

セ ン タ ー 長	◎森 政弘
教 授	高野 綏
助 教 授	清水 康敬
理 学 部 長	安盛 岩雄
工 学 部 長	藤本 盛久
大学院総合理工学研究科長	明 昌 高司
附 属 図 書 館 長	早川宗八郎
工学部附属工業高等学校長	安田 力
科学教育研究室主事	坂元 昂
教 務 部 長	田中 良平
事 務 局 長	鈴木 博司
教 育 委 員 会	小野田真穂樹
研 究 委 員 会	福田 豊彦
大 学 院 委 員 会	大滝 仁志
教 職 学 科 目	坂元 昂
共 通 科 目	宮本 陽吉
理 学 部	永田 一清
工 学 部	森田 矢次郎
	平井 聖
	森川 陽
大学院総合理工学研究科	岸 源也
	関根 太郎
	武者 利光
幹 事	工学部事務長

総合情報処理センター運営委員会

セ ン タ ー 長	◎池辺 潤
助 教 授	前野 年紀
理 学 部	堀江 久
工 学 部	木村 泉
	加藤 誠軌
	安部 明広
	広瀬 茂男
	後藤 尚久
大学院総合理工学研究科	桃島 成治
資 源 化 学 研 究 所	広瀬 千秋
精 密 工 学 研 究 所	今井 聖
工 業 材 料 研 究 所	古村福次郎
原子炉工学研究所	高橋 亮一
教 育 委 員 会 委 員	小林 宏
研 究 委 員 会 委 員	高橋 清
附 属 図 書 館 長	早川宗八郎
教 務 部 長	田中 良平
事 務 局 長	鈴木 博司
幹 事	センター事務長

理工学国際交流センター運営委員会

センター長	◎柳沢 健
教授	辻内 順平
	朝倉 利光
助教授	大津 元一
	安田 嘉純
理学部長	安盛 岩雄
工学部長	藤本 盛久
大学院総合理工学研究科長	明畠 高司
精密工学研究所長	森 栄司
理学部	早川宗八郎
工学部	石川 延男
	石原 舜介
大学院総合理工学研究科(構)	田幸 敏治
国際学術交流委員会委員長	田中 郁三
工学部	関口 利男
	未松 安晴
	渡辺 隆
教務部長	田中 良平
事務局長	鈴木 博司
幹事	工学部事務長

総合研究館運営委員会

理学部	永田 一清
	野宗 嘉明
工学部	小坂 丈子
	坂田 勝
	野村昭一郎
大学院総合理工学研究科(構)	田幸 敏治
	高原 康彦
資源化学研究所	伊香輪恒男
精密工学研究所	梅川 莊吉
工業材料研究所	星野 芳夫
原子炉工学研究所	井上 晃
研究委員会委員長	笹田 義夫
館長	◎小林 啓美
事務局長	鈴木 博司
幹事	総理工等事務部長 総理工等庶務課長

留学生会館運営委員会

教務部長	田中 良平
留学生委員会委員	◎石川 延男
	○渡辺 隆
厚生補導委員会委員	阿部 光雄
	日野 太郎
理学部	井上 淳
工学部	室田 忠雄
大学院総合理学研究科	岸田 英明
原子炉工学研究所	富安 博
留学生相談主事	森田矢次郎
工学部	片山 功蔵
	原 芳男
	沼沢 治治
事務局長	鈴木 博司
幹事	教務部次長 教務課長 厚生課長

研究・情報交流センター運営委員会

センター長	◎小林 啓美
理学部	永田 一清
	野宗 嘉明
工学部	小坂 丈子
	坂田 勝
	野村昭一郎
大学院総合理工学研究科(構)	田幸 敏治
	高原 康彦
資源化学研究所	伊香輪恒男
精密工学研究所	梅川 莊吉
工業材料研究所	星野 芳夫
原子炉工学研究所	井上 晃
総合研究館長	小林 啓美
研究委員会委員長	笹田 義夫
事務局長	鈴木 博司
幹事	研究協力部長 総理工等事務部長

極低温エネルギー実験センター運営委員会

センター長	◎栗野 満
助教授	大塚美枝子
理学部	安盛 岩雄
工学部	永田 一清
	小尾 欣一
工学部	佐藤 則明
	森 康夫
大学院総合理工学研究科	塩田 進
	武者 利光
資源化学研究所	山瀬 利博
原子炉工学研究所	織田 暢夫
事務局長	鈴木 博司
幹事	理学部事務長

エックス線障害防止専門委員会

理学部	高柳 邦夫
	島内 浩喬
工学部	◎加藤 誠軌
	田村 博
	入戸野 修
大学院総合理工学研究科	佐藤 彰一
資源化学研究所	江口 元徳
精密工学研究所	大浦 宣徳
工業材料研究所	森川日出貴
原子炉工学研究所	高木 隆三
幹事	研究協力課長

国際テレックスの利用について

昭和54年9月に開設した学内共同利用のテレックスは、諸外国との学術交流等に幅広く利用されています。

御利用の際は、所定の用紙（両学部、原子炉研は庶務掛、長津田地区は各部局事務室にあります。）に必要事項を記入の上、研究協力部研究協力課広報調査掛（内線2032）まで申し込み願います。テレックスの利用の場合は下記のことにご留意ください。

1. 国際テレックスの発信の際は先方のテレックス番号、国名を明記してください。
2. 国際テレックスの料金が5月1日に改定され安く

- なりました。送信時間1分間(40語前後)につき、アメリカ合衆国、カナダ、東南アジア……730円
ヨーロッパ、北欧、東欧、ソ連……830円
その他南米、アフリカ諸国等……930円
3. テレックスの設備が先方の機関にない場合、テレックスによって国際電報が発信できます。その際は着信都市名、住所が必要です。先方でケーブルアドレス(CA、国際電報宛名略号)が登録されていれば語数の節約になります。
4. 国際電報の料金は語数、至急・一般・書信の別、通信国によって違います。くわしくは広報調査掛まで問い合わせてください。
5. 国際テレックスの方が国際電報より格段安くすみます。テレックス番号の問い合わせは電話ではできませんので、先方の機関名と都市名を広報調査掛まで連絡してください。テレックスによってKDDへ照会します。
6. 平日は午後4時まで、土曜日は午前11時までに研究協力課へテレックス等申込書を持参された場合はその日に発信します。4時を過ぎると翌日の発信になります。但し、長津田地区からの定期便による申込みについてはその日に発信します。
7. テレックスの受信については該当の研究室へ電話しますので、大岡山地区は事務棟4階研究協力課へ、長津田地区については総合研究館3階庶務課へ取りに来てください。(定期便により送付)
8. 国際テレックス及び国際電報で使用可能な文字等は、アルファベット26文字(ウムラウト等は使用不可)、数字(0~9)と次の記号に限りしますので御注意ください。通信文はタイプ又は活字体で願います。 - ? : () . , ' / + =
9. 本学のテレックス番号等は次のとおりです。

アンサーバックコード

2 4 6 6 3 6 0 T I T E C H J

ケーブルアドレス

T I T E C H O O K A Y A M A

その他、不明な点がありましたら研究協力部研究協力課広報調査掛(内線2032)までお問い合わせください。

外国人来訪者一覧

昭和57年1月から5月までに本学に来訪し、研究協力部の世話するところとなった外国人及び本学側の応接者は次のとおりである。(長津田地区と記載してある以外は、すべて大岡山地区)

1月21日 ケニア国技術教育調査団(団長：高等教育省副大臣 W.M.Mwita)、同国大使等、計7人。

理学部長、国際学術交流委員会委員長、理工学国際交流センター長等、長津田地区で大学院総合理工学研究科長、上記委員会副委員長等。(仲介：外務省・文部省)

2月1日 中国北京鋼鉄学院副院長林宗彩等、計3人。学長、工学部長、大学院総合理工学研究科長、金属工学科の教授等。

2月5日 イスラエル工業大学広報部長 David Friedlander、テル・アビブ大学広報情報部長 Yoram E. Shamir 計2人。広報委員会委員長等。

2月23日、5月11日、5月17日 東独大使館1等書記官(科学技術担当) Dieter Preusche。研究協力部長、国際主幹。

2月25日 中国大連外国語学院副院長劉和民等計3人。留学生委員会委員長等。(仲介：文部省)

3月1日 フランス国ツールズ工科大学長 J. Nougaro。学長、工学部長等。

3月1日 東南アジア諸国連合(ASEAN) 人造りプロジェクト関係シンガポール国要人(国家生産性庁事務局長 Lim Jit Poh 等)、計6人。教育工学開発センターの教官。(仲介：文部省・国際協力事業団)

3月11日 韓国大使館首席教育官安商述等、計2人。学長等。

3月18日 韓国大統領秘書室教育文化首席秘書官 Son Jhe Sik 等、計5人。学長、工学部長等。(仲介：文部省)

3月25日 メキシコ国ラテン・アメリカ教育伝達研究所副所長 Luis Benavides Ilizaliturri。教育工学開発センター長等。

4月2日 アジア地域ユネスコ国内委員会事務局職員(フィリピン Apolinario Tating 等) 計4人。学長、ユネスコ化学・化学工学国際大学院研修講座の担当教官・研修生等。(仲介：文部省)

4月16日 ベルギー国リエージュ大学応用科学部教授・学生(団長：教授 Geradin Michel)、計26人。教育工学開発センター長等。

4月20日 シンガポール大学自然科学分野代表団(団長：理学部副学部長 Bernardo Tiong Gie Tan)、計4人。

理工学国際交流センター長等。(仲介：日本学術振興会)

4月22日 ノルウェー国トロンドハイム大学教授 Rolf Lenschow。工学部の関係教授等。(仲介：文部省)

5月11日 中国清華大学副学長 艾知生等、計2人。工学部長等。

5月17日 ベルギー国ワロン地域経済使節団員(ルーバン・カトリック大学教授 Michel Meulders 等)、計3人。国際学術交流委員会委員長、総合研究館長等。

5月21日 インドネシア国スラバヤ工科大学副学長 Oedjoe Djoeriman 等、計2人。理工学国際交流センター長、留学生委員会委員長等。

昭和57年度就職幹旋事務について

昭和58年3月卒業見込みの学生に対する就職幹旋に
関しては、6月11日(金)、就職担当教官懇談会が開催さ
れました。今年度は、中央雇用対策協議会から労働省
が「就職協定」に行政として参加しないことになりま
したが、大学・高等専門学校11団体と、中央雇用対策
協議会(労働省除く)の双方で就職の選考開始時期等
について昨年通り実施することを申し合せましたので、
これ等の趣旨に基づき審議した結果下記の通り決定し
ました。

また、文部省から“学生の皆さんへ”という同様の
趣旨を伝える通知が来ていますので掲載いたします。

1. 採用者側から求人申込みの発表、9月10日以後
2. 就職担当教官の推薦開始、10月1日
3. 就職関係に使用する証明書(成績証明書、卒業
見込証明書)の交付、10月1日以後
4. 就職担当教官以外に求人の申込みがあった場合
は、就職担当教官に連絡し処理する。
5. 大学院修士課程学生については学部学生に準じ
て取り扱う。

なお、昭和57年度の就職担当教官は次のとおりである。

	学科・専攻	官職	氏 名	内線電話	部 屋 番 号
理 学 部	数 学 学 科	教授	丹野修吉	2208	本館3-23B
	物 理 学 科	"	三宅 哲	2071	本館3-24B
	化 学 学 科	"	池川信夫	2227	本館地-59
	応 用 物 理 学 科	"	本尾 実	2453	南棟403
	情 報 科 学 科	"	森村英典	3202	南棟508
	金 属 工 学 科	"	後藤和弘	3142	東棟359
	有 機 材 料 工 学 科	"	今井淑夫	2432	石川台3号館408
	無 機 材 料 工 学 科	"	小坂丈子	2524	石川台1号館202
	化 学 工 学 科	"	辻 二郎	2120	北棟313
	高 分 子 工 学 科	"	飯島俊郎	2128	本館2-62
工 学 部	機 械 工 学 科	"	辻 茂	2164	本館2-36
	生 産 機 械 工 学 科	"	笹田 直	2535	北棟510
	機 械 物 理 工 学 科	"	坂田 勝	3180	中棟1号館423
	制 御 工 学 科	"	森 政弘	2547	南棟307
	経 営 工 学 科	助教授	慶谷淑夫	2248	中棟1号館632
	電 気・電 子 工 学 科				
	電 子 物 理 工 学 科	教授	飯島泰蔵	2187	中棟2号館517
	情 報 工 学 科				
	土 木 工 学 科	"	長滝重義	2585	緑が丘1号館512
	建 築 学 科	"	青木志郎	3151	" 1号館308
大 学 院 理 工 学 研 究 科	社 会 工 学 科	"	阿部 統	3185	" 3号館402
	原 子 核 工 学 科	"	福富 博	3062	原 研205
	物 理 情 報 工 学 科	教授	岸 源也	2520	大学院2号館710
	電 子 化 学 科	"	前田史朗	2250	資大棟312
	社 会 開 発 工 学 科	"	岸田英明	2603	大学院3号館810
	精密機械システム	"	神馬 敬	2045	精像棟314
	材 料 科 学 科	"	森 勉	2622	大学院3号館724
	電 子 シ ス テ ム 科	"	武者利光	2546	大学院2号館1115
	化 学 環 境 工 学 科	"	大島栄次	2248	資天棟614
	生 命 化 学 科	"	吉村寿次	2378	資天棟514
大 学 院 理 工 学 研 究 科	エ ネ ル ギ ー 科 学 科	"	塩田 進	2660	大学院3号館408
	シ ス テ ム 科 学 科	"	菅野道夫	2641	大学院3号館1114

理学部・工学部 } (大岡山キャンパス)
大学院理工学研究科 }

代表電話 726-1111

大学院理工学研究科(長津田キャンパス)

代表電話 045-922-1111

学生の皆さんへ

文部省

皆さんは、来春卒業されるにあたり、将来の進路に
ついていろいろお考えのことと思います。

すでに御承知のように、就職のための選考開始時期
等については、大学・高等専門学校関係11団体と中央
雇用対策協議会の双方において、次のような内容の申
合せが行われております。

① 求人(求職)のための企業と学生の接触開始は卒
業前年の10月1日。

② 選考開始は卒業前年の11月1日。

これらの申合せは、学校教育を適正に実施し、
学生の就職の機会均等・公平性を確保するという
観点から定められたものです。

学生の皆さんも、この趣旨を十分理解の上会社訪問
等就職のための企業との接触は必ず10月1日以降行わ
れるように御協力をお願いします。

昭和58年度大学院修士課程入学試験実施日程

昭和58年度の大学院修士課程入学試験は、下記の日
程で実施されます。詳細については、教務部教務課入
学試験掛(内線2066, 2067)まで問い合わせください。

なお、同試験に関する募集要項は7月中旬にできあ
がりますので、同掛まで申込みください。

記

願書受付 昭和57年8月6日(金)～8月12日(木)

学力検査 昭和57年8月25日(水)～8月27日(金)

口頭試問受験資格者発表 昭和57年9月14日(火)

口頭試問 昭和57年9月16日(木)～9月18日(土)

健康診断 昭和57年9月16日(木)～9月20日(月)

合格者発表 昭和57年9月30日(木)

中国赴日留学生予備学校への派遣

日中両国政府の協議により、日本の大学院への留学
をめざす中国の大学卒業者に対して、吉林省長春市に
ある東北師範大学内中国赴日留学生予備学校で、日本
の教員が予備教育に当たることになり、去る3月15日
に東京外国語大学を中心とする日本語教育担当教員4
人が出発したが、6月15日には本学理工部の栗野満教
授(団長)、小沢満教授、小島政和助教授、島内浩喬
助教授、お茶の水女子大学理学部の山下貴司助教授、
計5人が出発した。これら5名は、それぞれ物理、数
学、情報処理、化学、生物を担当する。文部大臣から

派遣教員を委嘱された上記9人は、9月27日帰国の予定である。

なお遼寧省大連市にある大連外国語学院派遣留学生養成訓練部でも同様の予備教育が行われており、京都大学、大阪外国語大学等の教員9人が担当している。

学生用図書の選択について

例年、学生諸君の学習、研究、教養に適当と思われる図書を購入していますが、本年も6月25日の附属図書館委員会において57年度の収書計画が決まりました。次の学生用図書選択委員会委員の方々が、各分野ごとに分担して図書の選択に当ると共に、学内利用者の希望を広く取り入れることになりました。

希望者は、図書選択委員に連絡するか、図書館の各階にある投書箱を御利用ください。

なお、不明の点は、附属図書館整理課第1受入掛(内線2092)まで問い合わせください。

昭和57年度学生用図書選択委員会委員

所 属	官 職	氏 名	選 書 分 野
数 学	助教授	増田一雄	数 学
物 理	"	小野昱郎	物 理
化 学	"	宮崎栄三	化 学
一 般	"	八嶋建明	"
生 物	教 授	大西孝之	生 物
金 属	助教授	入戸野修	金 属
無 機 材 料	教 授	小坂文子	地 学
化 工	助教授	中井 武	化学工学
原 子 炉 研	"	北沢 日出男	"
生 産 機 械	"	恩沢忠男	機 械
経 営	教 授	秋庭雅夫	経営・経済
電気・電子工学	"	内藤喜之	電気・電子工学・情報工学
建 築	助教授	谷口汎邦	建築・土木・社会工学
資 源	"	軽部征夫	医学・薬学
外 国 語	助教授	馬越庸恭	総記・哲学・歴史・社会学
一 般	"	今田高俊	芸術・語学・文学
総 理 工	助教授	梅沢清彦	—長津田分館—
"	"	高柳邦夫	
"	"	中野文平	
資 源	"	正田 誠	
精 研	"	大槻茂雄	
工 材 研	教 授	沢岡 昭	

特別推進研究の制度化

文部省では、世界の最先端に行く極めて優れた研究であって、国際的にも高い評価を得、かつ、格段に優れた研究成果をもたらす可能性のある研究計画に対して、重点的に研究費を交付し、その飛躍的發展を図るための方策を昭和54年度より実験的に施行してきた。本学の末松安晴教授(工学部電子物理工学科)を代表者とする「長波長集積レーザ及び光集積回路に関する研究」がこの交付の対象となったことは、本誌第127号に報じられているところである。

このたび、昭和57年度予算において、科学研究費補助金に独立の研究種目として「特別推進研究」が認められたことに伴い、文部省の本件募集要領に基づいて、本学では6月に学内の募集が行われた。この制度は今後毎年定期的な実施される見込みであるので、これにより本学における独創的な高水準の研究が一層進展することが期待される。

キャンパスニュース

第16回大岡山現代講座開かれる

去る6月2日(水)午後2時から1時間半にわたり、講師に西武百貨店会長堤清二氏を迎えて第16回大岡山現代講座が開かれた。

堤氏は、西武流通グループ90余社の代表として著名な実業家であるほか、辻井 喬というペンネームを持つ詩人としても知られている。

同氏は、「産業社会の変貌」のテーマで、豊富なデータとユーモアを交えながら日本の産業社会の特徴及びその変化と展望について話され、350名の教職員・学生を魅了した。

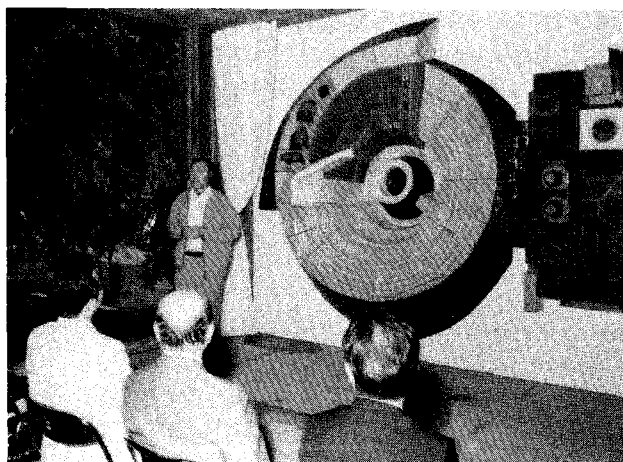
今回は、11月初旬に開かれる予定であり、講師・テーマは決まり次第、本誌で発表する。



管理棟玄関ホールに陶板レリーフが完成

過日、管理棟1階ホールに陶板レリーフが完成した。

テーマは、たゆまざる科学技術の進歩を利用して、人間の生活や文化を豊かにしていくさまを抽象的に表現したもので、理工系大学にふさわしい見事な作品である。設計は東京芸術大学ルイ・フランセン先生の手による。陶板は信楽焼。詳細は次号で紹介の予定である。



中央正面が製作者のルイ・フランセン先生

——— 教官寄贈図書 ———

旗野嘉彦（助教授）：Photoabsorption, Photoionization & Photoelectron Spectroscopy

The Excited in Chemical Physics

電子光学

竹中俊夫（教授）：SI の使い方

野村昭一郎（教授）：演習セミナーによる量子力学入門

長滝重義（教授）：新体系土木工学・別巻

鈴木周一（教授）：化学センサー

医療施設の環境汚染と対策

井関孝善（助教授）：セラミックスの強度と破壊

池原止戈夫（名誉教授）：解析学概論

吉岡 丹（名誉教授）：建築・構成と材料

~~~~~ 編集後記 ~~~~~

夏休みを前にして、学生諸君はいろいろと楽しい計画を立てていることと思います。学生時代の思い出などを交えながら、夏休みについて6名の教官に筆を執っていただき、特集としました。夏を有意義に過ごす参考にしてください。

山や海に出かける際は、事故に十分注意しましょう。

8月は休刊、次号は9月20日ごろ発行の予定です。

東京工大クロニクル No.148

昭和57年7月7日

東京工業大学広報委員会 発行©

東京都目黒区大岡山2-12-1 〒152

電話 03-726-1111 内線2032